



令和5年10月17日
 (一財) 3.11 伝承ロード推進機構

「3.11 伝承ロード」・「写真で見る復興 10 年の歩み」パネル展の開催について

テーマ：「教訓が、いのちを救う。」

東日本大震災から12年が経過しましたが、東日本大震災の記憶や経験を忘れずに後世に伝承するため、東日本大震災の実情と教訓等を映像やパネルにより紹介しています。

また、被災地の被災前、被災直後、復興10年の状況について写真パネルにより紹介しています。

※「3.11 伝承ロード」とは、東日本大震災の教訓を学ぶため、震災伝承施設のネットワークを活用して、防災に関する様々な取組や事業を行う活動です。その活動によって、防災に関する知識や意識を向上させるとともに、多くの人々との交流を促し、災害に強い社会の形成と地域の活性化に繋げるものです。

◆パネル展等の内容

1) パネル展

- ・教訓の伝承の取組
- ・災害発生時の対応等について（協力：東北地方整備局）
- ・被災前・被災直後・復興10年の航空写真（岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、福島県相馬市等）（協力：(一社)東北地域づくり協会）

2) 映像紹介

- ・映像による東日本大震災発災後の建設業界の活動

(1) 会場 サン・リアショッピングセンター

〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字町10-11

- 期間 令和5年11月1日(水)～令和5年11月7日(火)
- 時間 9:00-19:00 (11月1日(水)は13:00から、11月7日(火)は12:00までになります。)
- 主催 (一財) 3.11 伝承ロード推進機構
- 共催 大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会
- 協賛 サン・リアショッピングセンター
- その他 新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、十分なご配慮とご協力をお願いします。

(2) 会場 おおふなぼーと (大船渡市防災観光交流センター)

〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字茶屋町7-6

- 期間 令和5年11月8日(水)～令和5年11月14日(火)
- 時間 9:00-21:00 (11月14日(火)は12:00までになります。)
- 主催 (一財) 3.11 伝承ロード推進機構
- 共催 大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会

(3) その他 新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、十分なご配慮とご協力をお願いします。

《発表記者会 岩手県政記者会、大船渡記者クラブ、東北建設専門紙記者会》

問 合 せ 先
一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 2-26 事業部長 佐藤 勝也 TEL 022-393-4261

展示パネルの例

教訓が、いのちを救う。

備えることで救える“いのち”があることを知ってもらう！

学ぶことで助かる“いのち”があることを知ってもらう！

一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

「くしの歯作戦」、決行。

一刻も早く。

命の道を切り開く、一刻を争う戦いへ。

「くしの歯作戦」とは、内陸部を南北に貫く東北自動車道と国道4号から、「くしの歯」のように沿岸部に伸びる何本もの国道を、救命・救援ルート確保に向けて切り開く作戦のこと。

想像を超える巨大津波は、太平洋沿岸の各地に壊滅的な被害をもたらし、がれきや橋の流出で沿岸部の各地を孤立させた。地震発生直後、国土交通省東北地方整備局の災害対策室には、幹部や職員が続々と集結。道路関係事務所や出張所と連絡を取り、被害確認と対策立案を急いだ。そして、直ちに、命の道確保に向けてルートを開き「くしの歯作戦」を決行した。

一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

311 DEATH ROAD 岩手・青森県内の震災伝承施設

- 八戸市みなと体験学習館
- 津波遺跡たろう観光水falls
- たろう観光水falls
- 宮内市市民交流センター 防災ラザ
- 岩手防壊堤
- 大船渡市立博物館
- 久慈地下鉄科学館 もの5人の塔
- 岩手県・青森県の観光
- 3.11震源地 遠野市防災資料館
- 釜石市のパーク
- 大船渡市立博物館

子へ、孫へ 後世へ伝える。

命のたぐひに。

地震と津波の恐ろしさを語り継ぎ、後世に伝えていきたい。

この事業は地学博物館岩手県立博物館の企画で実施されています。

津波の恐ろしさを伝えるもので、中核となるのは、平成11年（1999年）に、宮内（釜石）地区で発生した、平成11年（1999年）の津波。その津波の恐ろしさを、その津波から発生した巨大津波による被害の恐ろしさを、私たちは、この事業を通じて伝えていきたい。

色とりどりの石碑をめぐって語り継ぎ、命に敬意を払ってほしい。

宮内（釜石）地区の津波の恐ろしさを、その津波から発生した巨大津波による被害の恐ろしさを、私たちは、この事業を通じて伝えていきたい。